

## 経営者への活きた言葉

### 人物になるための一番の基本は「慎獨」 伊與田學(論語普及会学監)

1. 中国古典の「大学」に、次の一節があります。「所謂 其の 意を 誠にすとは、自 欺くなきなり」。

「意」とは意識のことであり、内なる心が表に現われきたものです。そして「その意を誠にす」とは、意を正常にすること。それは「自ら欺くなきなり」、つまり、自分で自分を欺かないということです。

2. 「忠」という字は、自分で自分を欺くことなく、常に全力投球で事に当たることを意味します。本当は、自分に向けるべきものです。また「信」という字は、嘘偽りなく、自分が言ったことは必ず守ることを表す文字です。こちらは他人に対するものです。自分に対しては忠、他人に対しては信、いずれも「誠」ということです。

3. では、自分を欺くことなく、誠を貫いていける人間性を養っていくには、日頃からどのようなことを心掛ければよいのでしょうか。「大学」は次のように説いています。

「君子は、必ず其の獨を慎むなり」。

立派な人物というものは自分独りであるとき、つまり他人が見ていない時でも己をしっかり律していくという言葉です。「大学」ではこの「慎獨」を非常に重視し、人物になるための一番の基本としています。

(参考:「致知」2011年8月号)

## ワンポイント経営アドバイス

### 企業の経営再建の心得(東日本大震災後)

1. 「行きすぎた効率経営を見直せ」(加護野忠男・甲南大学特別客員教授)

- ①直視してこなかった問題を見据える契機に
- ②「選択と集中」の行きすぎを是正する
- ③復興には自立を促す冷めたリーダーが適任

2. 「全員経営で創造力の再生を」(野中郁次郎・一橋大学名誉教授)

- ①全員が参加する「衆知経営」への回帰
- ②米国流経営の分析至上主義から脱却
- ③企業の経営革新にミドルを生かす

(参考:「日経ビジネス」: 2011年5月9日号)